

健康調査を実施して

入善町農業協同組合生活指導課

生活指導員 長 田 弘 子

I 入善町農協管内のあらまし

入善地区は、富山県のほぼ東端にあり黒部川右岸に位置する農村で、黒部扇状地の中央部を占め、地形はほぼ三角形をなす沖積平野で地勢は、おおむね平坦である。農協は10支所あり組合員戸数 5,500戸（正 3,964戸、准 1,536戸）。

農業は米作を中心とし、一戸あたり耕作面積1ha、複合経営としては、チューリップ、黒部西瓜、大根、いちご、乳牛、肉牛、豚、鶏などがあり、管内の圃場整備事業は91.6%完了し、農業の近代化は県下のトップクラスにあり、農業の省力化が進み、生じた余剰労力はほとんど他産業へ流れ、又それぞれの地区に中小企業の工場が誘致され、農業の基幹労働力であった主婦すら勤めるようになった現状である。

II 農協健康診断が実施されるまで

1. 主婦の過重労働によって、健康がむしばまれていることが、疲労状況調査により把握された。
2. 健康管理に対する意識が全般的に低い。その原因としては生活面に欠陥があり、健康の実態にともなう生活指導が必要であるという事が日常活動で強く感じ、農協指導事業として取り組まなければならないという事がわかった。
3. 一部の組合員が農協に要望する事業として強く打ち出した。

以上三点から、農協婦人部健康診断を実施する事にした。

III 実施にあたって

実施にあたっては

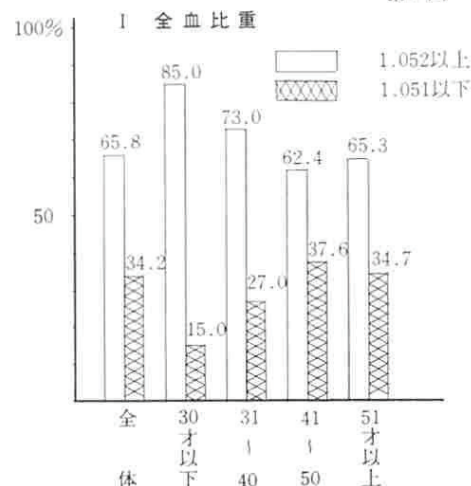
1. 生活座談会を開催し、健康診断の必要性を説き、一方農協だよりに掲載し、婦人部、厚生連、普及所などの関係機関と連携をとり、希望者をつのった。実施時期は6月下旬～7月中旬の間に行った。
2. 受診者名簿を作成し、希望者に対しての案内状を作成配布し、健康診断に望んだ。

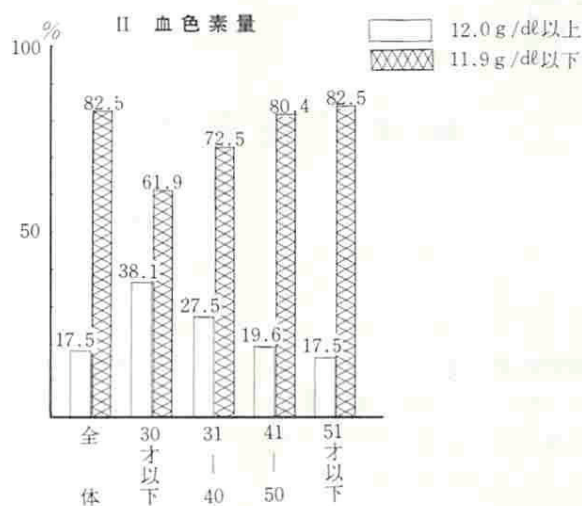
健康診断実施事項としては、①貧血検査（全血比重・血色素）②検尿（蛋白・糖・ウロビリノーゲン）③内科検診（血圧測定も含む）④血液型 ⑤疲労状況調査（人体疲労・フリッカー値）⑥問診（生活状況調査・診断カルテ）⑦身長 ⑧体重などである。

IV 実態調査の結果

1. 健康診断の結果

第1図



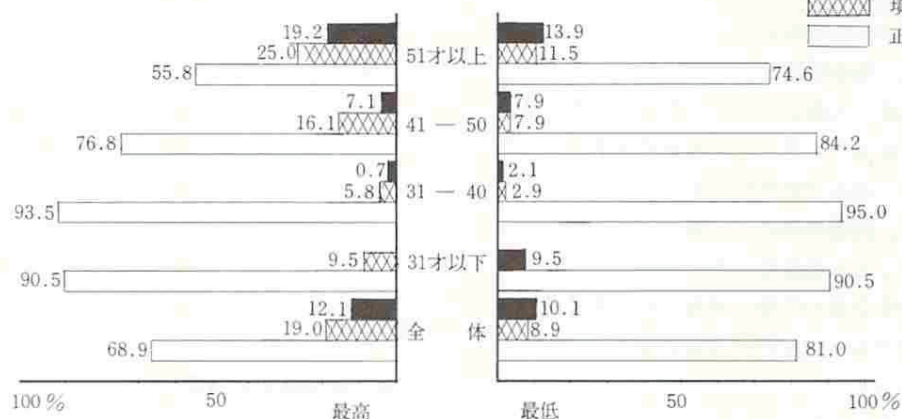


第2図

血圧検査

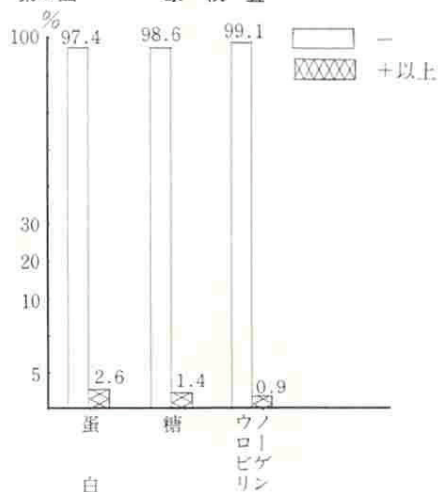
注、WHO基準

■ 高血圧
 ▨ 境界
 □ 正常



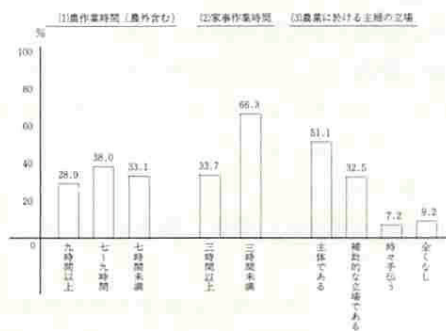
第3図

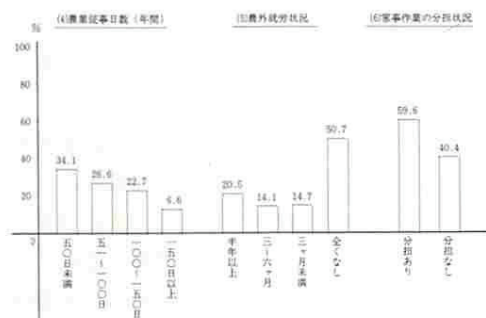
尿検査



2. 生活状況調査の結果

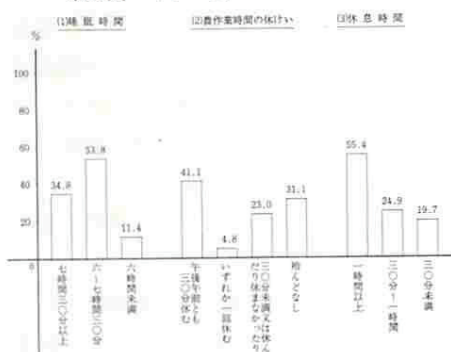
第4図 (1-6)



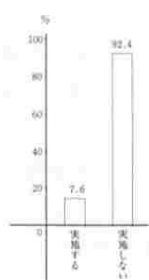


3. 休養確保の状況

第5図 (1-4)

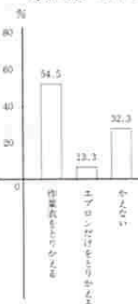


(4)家庭の日の実施



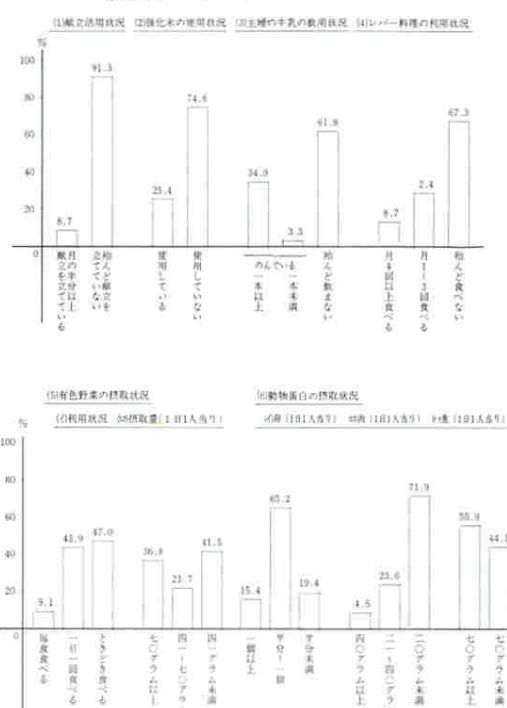
4. その他

第5図 (5) 家庭層と作業衣の分層状況



健全な食生活の実態

第6図 (1-6)



5. 考察

・健康診断においては

1. 血液異常者が多い。その中でも特に血色素異常者が多く、又働きざかりの人に多くみられた。
2. 血圧異常者も多くみられ、特に高年齢層と太った人に多くみられた。
3. その他の異常者は比較的少なかったが、それぞれの病気が早期に発見された。

・生活診断においては

1. 計画的な食生活がなされていない。
イ、献立を立てている人はほとんどない。
ロ、必要量を摂取していない。(強化米、米、レバー、肉、牛乳、野菜、卵など)
2. 休養の確保がなされていない。(睡眠時間、農作業間の休けい時間が少ない。)
3. 農業の主体者でありながら、農業従事日数が少ない。

4. 農作業時間が多く、家事作業時間が少ない。
 5. 家庭の日の実施がほとんどされていない、又家庭での話し合いがなされていない。
- という事が読みとれた。

V 事後対策

事後対策としては

1. 個人報告書作成配布
2. 貧血及び高血圧に対しての資料作成配布
3. 農協だよりによる結果報告
4. ぐらしの会及び生活座談会を開催、あるいは、婦人部教室の場を利用し、健康を守るための意識づけをした。

内容としては、

- ① 貧血、高血圧を防ぐ料理講習
- ② 生活時間の配分（㊦休養、睡眠、家事作業時間の確保、㊧家事分担）
- ③ 不足食品（ポリライス、食用油、有色野菜、肉）の共同購入
- ④ 共同炊事
- ⑤ 家族の話し合いの実施
- ⑥ 寒暖に適した住まいの工夫などである。

VI 今後の取り組み方

1. 健康診断として感じた事は、受診者側では
 - ① 期待して健康診断の場にのぞんだが、調査事項が多く、めんどろな風情が感じられた、しかし検診を終えた結果、こういう機会を得た事に感謝して帰られた。
 - ② 受診者に高年令者が多かったため、スムーズに進行しなかった。

原因としては

- 質問事項に適確な回答が得られない。
ざとろが悪く、順路をまちがう。
などがあげられるほか、また依頼心が強い。
- ③ 男の人も受診したいという希望が多かった。
 - ④ 受診した結果、地元の病院のみならず、金沢大学病院へまでも行って、再検査を

受ける人もあり、大変喜ばれた。

主催者側としては

- ① 調査事項が多く、ききとり方の工夫が必要であった。
 - ② 進行としては、事前の打ち合わせがなされていたため、スムーズに行なわれた。
 - ③ 学生時代に戻ったようなよろこびがうかがわれたが、年令の開きがあるので、身長、胸囲、疲労調査はしなくても良いと思った。
2. 今後の取り組み方としては
 - ① 年に1～2回は、健康診断を受けようとする（自分の健康をかえりみる）保健意識の向上をはかることが、この健康診断の目的なので、昨年度よりも今年、今年よりも来年と、1人でも多く受診してもらうように働きかける。
 - ② 健康診断の内容をもう少し検討しなければいけない。
 - ③ 高年令者の人が多く、年令規制をしようかと思ったが、気軽に検診を受けれるようにという意見を尊重し、年令は制限しない方が良いと思った。
 - ④ あらかじめ、問診表を受診者に配布し、記入してもらい、検診の当日持って来てもらうようにする。
 - ⑤ 個人報告書には、要注意と要精検の形で、再検査、精密検査を受けるように案内したが、その結果を連絡のため、返信用の葉書を同封する方が良い。
 - ⑥ 事後指導に対しても、組織ぐるみで対策を考え、実行に移したい。

以上、農協で取り組んだ健康診断について述べて来ましたが、自分の健康状態を知って日常のくらしを変えて行くような心がけをもつためにも、このような健康診断を毎年続けてゆきたいと思う。